

カラ松準耐火壁に挑戦

CLT需要見込む

和建築設計事務所

和建築設計事務所
(長野県塩尻市、青木
和壽社長)は、県内の
製材工場4社と共同で
信州カラ松による準耐
火構造壁の開発に取り
組んでいる。木造軸組
工法による防火構造
(30分)と準耐火構造
(45分)、CLT工法
による準耐火構造(同)
の3種類について進め
ており、特にCLT工
法については普及と
ともに需要が出てくると
見込んでいる。

これは長野庁の地域

始まるなか、その活用は構造材や下地材が主体で、その特性を生かした高付加価値木建材の開発を狙いだ。

同事業は2020年の省エネ基準義務化に対応するため、開発済みの防火構造の見直しを図り、大都市圏での需要が見込まれる木造軸組工法及びCLT工法の準耐火構造壁を開発し、開発技術の普及活動を実施する。地域振興による木材活用、2020年東京五輪開催に伴う建設需要等を背景に、地域材を活用した木建材の要望は高まっており、そうした需要にも対応していく。

具体的には、既に開発した信州カラ松サイディングによる防火構造を基に、通気工法と

断熱工法を導入した防火壁の仕様検討と耐火性能試験(30分)を検証する。この検証結果を基に、外皮を信州カラ松サイディングとした外断熱工法+通気工法による準耐火構造壁の開発を木造軸組工法とCLT工法で行うことにしている。